

SNSというのは、していると楽しくな、て ついついしてしまいいいこともしてしまいがちです。後から冷静にな、て消したとしても、記録は残、てしまいます。また、それを見て傷つ、てしまった人のバ、にも残り続けます。一度、な、にかを投稿するとき、友達とのスマホでの会話をする時は、深呼吸を学びました。SNSでは顔も見えず、メッセージだと声もわかりません。絵文字、スタンプを付けて勝手に思い込んでいるのを無くしたり、大切なことは実際に会、て話をするこ、をバ、がけたいです。一番印象に残ったことは、いじめが理由で賠償金があるこ、です。子どものころに遊、べ、てしま、て、大人にな、て忘れていたとしても人を傷つ、けたこ、に変わりはありません。たとえ高額を払ったとしても、相手が受けた心の深い傷や、精神的苦痛など、お金で治らないものはたくさんあります。自分が気づいていないこ、で傷つ、ているという場合もあると思うので、気づけたらいいです。ぼう、観、者を減らすこ、というのも驚きました。いじめをする加害者がいなくなれば、一番良いですが、被害者の子、の話、を聞、いてあげたり、先生、親に相談するのこ、とても大切だと思います。被害者の子、も一人で抱、えこ、まず、相談するのこ、大切です。そうすれば、1、けしは気持ちよ、が楽になるかもしれせん。今日は、身近なテーマの話、を聞、くこ、が出来、て良、かったです。

女優やタレント、俳優など、有名な方々も幼い頃など
にいじめを受けたことがあると聞いたときに、誰
にでも「いじめを受ける可能性」というものが存
在しているのだなと思いました。また、文面など、
その誤解を生んでしまう可能性が高く、そ
の誤解で大きな問題に発展してしまうと、元
来、子どもはいいので、これから、SNSなどで文面で
伝えるときは、ちゃんと相手に誤解させないように
文章を確認してから送るように心がけたいと思います。
自分もSNS上でけんかに関わってしまったこと
があるので、今後、過去にあった過ちや悔いを
思い返し、これからどうしたらけんかや悔いをす
ぐらにすまかを考えて起こさないようにしたいかな
らなな...と思いました。自分は1人で抱え込んで
しまいくせがあるので、自分1人で抱え込む前に、友達や
家族、先生などに相談するようにしたいです。
SNSはとく名で何でも書き込めてしまうけど、い
くらバツを食って消したところで書いたこと
は残ってしまうから、SNSだからと言って何でも
気軽に載せることはこれからはいけないように、自分た
けでなく、友達などにも声をかけて、問題が起きな
いようにしたい...と思います。

私自身もInstagramなどのSNSをしていて、普段から両親に気をつけて使いなさいといわれていたのでもちろんと考えてかう使っていました。今回の講演会で西見さんのお話を聞き、もっと行動に責任を持ちながら使っていきたいと感じました。自分に責任を持ち、SNSに間違えた投稿をすると、一生消えないということ、もしかしたらその自分の発言、行動により嫌な気持ちになる人がいるということも知りました。過去に、SNSでのいじめが原因で無くなってしまった命もありました。自分で思うこと、考えることは大切ですが、それを自分の中に閉じこめておくだけでなく、声に出してしまったり、指で打ってしまうことが良くないんだと気付かされました。SNSは楽しむためにあるものだと思はれています。でも、それは一歩間違えると楽しいSNSではなく、他の誰かにとっては恐怖のSNSにもなり得るということだと思っています。これからもっとSNSを使う人が増え、その分SNSの使い方間違えてしまう人も増えると思うので、そんな人達にもこの講演会を聞いて、正しいSNSの使い方を知って欲しいと思います。

まず最初に、アカウントの特定をするのにかかる時間が約1時間しかかからないというのがもっとかかると思っていたので、とても驚きました。また、特定をするのに、誕生日や、住んでいる都道府県などと言明するのは分かっていただけ、文章の書き方のクセをみるというのが、驚いたのと、本当に1時時程で特定することができるのか、疑問に思いました。また、西見記者が、「取柄をする時にバカけていることは何ですか」と質問された時に「まず、相手がどんな人であっても相手のバカに寄り添って情報を聞く」というのが、とても立派なバカに寄り添っていると思い、今後はその事を意識して生活していこうと思いました。また、いじめについてで免罪符になったことは、いじめは先生から見たら、一時的な生徒のトラブルに見えることが多く、いじめと気づきにくいということだと思います。この言葉を聞いて、いじめが起きていたら見て見ぬフリをするのではなく、先生に相談することが大切だと改めて思いました。また、いじめはぼうけん者も悪くて、何もせずに見ているだけだと加害者と同じというのがなるほどと思ひ、もしいじめが起きていたらぼうけん者にならないようにしたいです。

いじめは自分の身近にあるものだ」と改めて知りました。私もSNSをしているので危険なこととは避けようと思いました。何かSNS上にあげたら2度と消えないことを心において使います。

まだ私はいじめられたり、いじめたり、いじめられている人を見たことがありません。私がもしいじめを見たらすぐ先生や親に話をしたいと思います。そして、何気なく友達に送ったものが相手とのすれ違いで傷付けてしまいそこからトラブルが起きたこともあったようなので、気を付けたいです。誰が受けとってても嫌な気持ちにならないかしっかりと見直しすることが大切だ」と学びました。いじめを受けたことがある人をこれから増やさないためにも、一人一人がSNSの使い方を見直し、相手を思いやることが大切だと感じました。

今日、学んだことを頭に入れながら段々と残り少なくなってきた中学校生活を楽しくしたいと思います。

今回の講演を通して、普段当たり前のように使っているSNSの怖さを再確認することができました。

一度SNS上にあげてしまった画像や情報は二度と消すことはできないし、何年経っても残ってしまう事が分かりました。企業や就職の時に見られたり、特定できてしまうことはSNSの怖さでなんとなくで始めではいけないと思いました。ネットでいじめをしていても周りの大人に伝わりにくくて、性格上「実はいじめていた」という事が起こらないように先生や親に相談しようと思いました。

また、本当にいじめられた被害者がうったえて、お金を請求できるとして、軽はずみに言葉を発して、相手を傷つけるのはいけないことだし、後い症まで残るおそろしさを学びました。結果、残った心の傷は治す事ができなくて、家で悩んでいる子がいたら必ず声をかけようと思いました。今はネットは便利な物としてたくさんの方が利用しているけど、その裏に苦しんでいる人がいると思うと他人事ではなく自分がされている側になって考えたいと感じました。これから少しでもいじめられる人が減るようになってほしいなと思いました。